

## はじめに

本書は明倫館・山口明倫館・越氏塾旧蔵の和漢書目録である。萩藩は、享保四年（一七一九）に萩城内の三郭（曲輪）に藩校明倫館を開設し、家臣の教育を行ったが、列強の外圧に備えて人材を育成するため、嘉永二年（一八四九）に萩の江向に新明倫館を建設し、教育の拡充をはかった。更に、萩藩は、安政六年（一八五九）九月に山口講習堂、同年十一月に三田尻越氏塾を明倫館の直轄とし、攘夷実行のため、文久三年（一八六三）四月に藩主敬親が山口に移り、同年七月に山口移鎮を行って政治の中樞を山口に置くとともに、同年十一月に山口講習堂を山口明倫館と改称し、人材養成機関の中心とした。以後、従来の明倫館は萩明倫館と称することとなった。元治元年（一八六四）二月、三田尻越氏塾は学習堂となり、同年七月に講習堂と改称した。こうして萩藩は、激動する社会情勢に対処するため、山口明倫館を中心に萩明倫館と三田尻講習堂を両翼として教育機関を整備し、人材養成をはかったのである。

萩藩所蔵の書籍が明倫館（萩明倫館）・山口明倫館・越氏塾（三田尻講習堂）に分かれているのはこのためである。このうち山口明倫館所蔵の書籍は、詳細な経緯は省略するが、山口師範学校を経て山口大学に伝来し、現存の明倫館関係の和漢書の大半を占めている。本書は、本学附属図書館に勤務した穂永秀夫氏（昭和六一年退職）が永年にわたって本学附属図書館のみでなく県内各地の図書館・博物館等を調査し、目録として整理したものである。従来、明倫館所蔵の書籍の散逸が惜しまれていたが、今回、穂永氏の努力によって、現存する同館所蔵の書籍が一つの目録にまとめられた意義は、非常に大きなものがある。本書の目録によって、明倫館関係の和漢書が多く研究者に利用され、研究と教育に多様な成果がもたらされることを切望するとともに、穂永氏の永年の努力に感謝の意を表す次第である。

平成元年三月

山口大学附属図書館長 小川 國 治